

七高SSH通信

H30・6・4
石川県立七尾高等学校
SSH推進室
平成30年度 第4号

シンガポール国際数学チャレンジ2018



Singapore International Mathematics Challenge 2018

5月21日(月)～25日(金)に、本校理数科と交流を行っているシンガポール国立大学付属数理高校(NUSハイスクール)において、第6回シンガポール国際数学チャレンジ2018(通称SIMC: Singapore international mathematics challenge)が行われ、本校生徒3名が参加しました。

参加したのは、3年理数科の富田くん、中田くん、2年理数科の南くんの3人で、七尾高校としては4回目の参加でした。世界31の国と地域から50校が参加したこの大会で、各チームが2日間で問題に対する英語のレポートを完成させます。レポート提出の翌日には評価者を変え3回英語でプレゼンテーションを行うという形式で、「City Life」という都市に関するテーマに挑戦しました。惜しくも賞は逃しましたが、生徒たちは堂々と素晴らしいプレゼンを行いました。



プレゼンの様子



課題に取り組んでいます



会場の様子



～生徒の感想～

OSIMCに参加して大変すばらしい経験をしました。最も印象に残ったことは、数学の問題を英語を用いて解き、発表することの難しさです。SIMCの問題は英語で書かれているので題意を理解するだけでも一苦労でした。中々解答の方針が見えずに三人とも悩んでいましたが、提出期限ギリギリでどうにかして答えを導き出してレポートを仕上げたときはホッとしました。口頭発表では採点官の英語の質問を聞き取って対応しなければならず、これもまた一苦労でした。SIMCで、数学を解くこと以外で、特によい経験になったのは、他国の高校生との交流でした。今回の貴重な体験で自分の知見を広げることができたと思います。

OSIMCを通して感じたことは、自分の英語力のなさです。私は一度、シンガポールに来ていたので、それなりに英語を聞き取れるだろうと思っていましたが、他国との交流会や他国の発表に参加してみると、会話に全然ついていくことができませんでした。また、他国の高度な数学・英語などに驚かされました。しかし、それと同時にいつか私も国際的に活躍できるようになり、いつの日かこの人たちと会話がしてみたいと思いました。今、いつの日か対等に語り合うために、今の学習を大切に、基礎を固め、進学し応用を学び、こつこつと進んでいきたいです。

OSIMCを通して一番学んだことは数学的な考え方と身近な出来事の関連性です。モデリングの重要性とも言えます。今回のSIMCのテーマは「City Life」でした。問題の中身として、スパイのネットワーク構成・都市の拡張・橋を渡るときの対抗者との衝突がありました。これらをモデリングして数学的に考えます。その際にどうモデリングするか創造力が問われます。身近な出来事でもモデリングすることによって数学的に考えることができることを体感しました。また、SIMCを通して世界中の多くの国の人と交流しました。その中で感じたことは、いろんな人々と会うことで視野が広がることです。日本から出てみると当たり前だと思っていた文化や習慣も通じませんでした。そうした中でコミュニケーションをとることで、より一層相手のことを知ることができました。シンガポールでの全てのことが自分の成長の糧となると思います。

SIMCとは?

シンガポール国際数学チャレンジ(通称SIMC)とは、シンガポール共和国で行われている国際的な数学イベントで、世界中から優秀な学生を集め、数学的モデリングに挑戦し、彼らの創造性と数学的能力、スキルを競うことを目的として隔年で開催されている大会です。また、コンペティションだけでなく、国を超えての専門的交流を図ることも目的のひとつであり、NUSハイスクールとシンガポール教育省が共同開催し、今年で6回目の大会となります。今回は、オランダ、ポーランド、ケニアなど31の国と地域から50校、日本からは本校と東工大附属科学技術高校、立命館高校、横浜サイエンスフロンティア高校、東海高校の5校が参加し、数学の力を競い合いました。